

学会記事

I. 運営委員会報告

2008年9月24日から30日にかけて、メール審議により以下の事項を審議した。

1. 表彰委員会による表彰規程の改定(案)について審議し、これを承認した(別掲1)。
2. 2008年度学会各賞の受賞予定者について審議し、受賞者を決定した。

2008年10月11日に東京農工大学(東京都府中市)において定例の運営委員会を開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2007年度収支決算(案)について審議した。
2. 2008年度収支予算(案)について審議した。
3. 植生学会会則の改定(案)について審議した。
4. 第15回大会の開催地について審議し、北海道札幌市で開催することとした。

II. 編集委員会報告

2008年10月11日に東京農工大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 植生学会誌の編集体制について審議し、2008年10月から事務局を編集事務局および第2編集事務局の2局とすることとした。新規投稿原稿の送付先は「編集事務局(北海道教育大学、並川寛司編集幹事)」宛とする。また、編集作業および職務引継の円滑化のために作業マニュアル等を整備する。
2. 投稿論文の「再投稿」に関して審議し、内規を定めた。
3. 植生学会誌の超過ページ料金の特例案について審議し、内規を定めた。

別掲1. 植生学会表彰規程(下線は追加・改定箇所。改定条項が多岐にわたるため、新旧対照表ではなく全文を掲載する)

植生学会表彰規程	第7条	[奨励賞] 本会が発行した刊行物に優秀な論文を発表し、独創性と将来性をもって学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。選考の対象者は当該年度の4月1日において35歳以下とし、過去に奨励賞の受賞経験のない者とする。別に定める植生学会奨励賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。
2002年10月18日制定 2004年10月29日改定 2008年9月30日改定	第8条	[功労賞] 植生学にかかわる研究、調査、教育、啓発普及や本会の運営に関し、特に顕著な功績があったと認められる者に授与する。別に定める植生学会功労賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。
第1条 本規程は植生学会会則第3条に基づき本会会員を対象として行う表彰に関して定めるものである。	第9条	[特別賞] 植生学または植生学会の発展のために多大な貢献をしたと認められる個人または団体に授与する。研究や教育への貢献のみならず、植生学の視点から環境保全事業や普及活動などにとりくむような社会貢献も評価の対象とする。別に定める植生学会特別賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。
第2条 [目的] 植生学のさらなる発展のため、植生学の分野において著しい成果を挙げた者および研究、教育、本会の運営等に特に顕著な功績をなした者、大会において優秀な発表を行った者に対して賞を授与し、その功績を称えることを目的とする。	第10条	[研究発表賞] 毎年開催される植生学会の大会において優秀な発表を行った者に授与する。選考の対象者は当該年度の4月1日において37歳以下の者で、研究発表賞に応募した者とする。別に定める植生学会研究発表賞細則に基づいて受賞者を決定する。
第3条 [表彰の種類] 表彰の種類は次のとおりとする。 (1) 植生学会賞 (2) 植生学会奨励賞 (3) 植生学会功労賞 (4) 植生学会特別賞 (5) 植生学会研究発表賞 これ以降はそれぞれ学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞、研究発表賞とよぶ。	第11条	[推薦者の資格] 学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の推薦者は本会会員に限る。自薦、他薦はこれを問わない。
第4条 [表彰委員会] 前条の各表彰の予定者を選定するために、表彰委員会を設ける。表彰委員会は表彰委員長と若干名の表彰委員で構成する。	第12条	[表彰の方法] 表彰は植生学会大会において学会長名で行う。
第5条 [受賞者の決定] 表彰委員会は学会賞、奨励賞、功労賞、特別賞の受賞候補者について審議し、受賞予定者を選定する。各賞の受賞者は運営委員会の議を経て決定する。研究発表賞の受賞者は、表彰委員長が委嘱した審査員の協議によって決定する。	第13条	[賞の内容] 賞状および記念品とする。功労賞受賞者は次年度以降の会費を免除する。
第6条 [学会賞] 本会に5年以上所属し、植生学に関して優れた業績によって貴重な学術的貢献をなしたと認められる者に授与する。学会賞の選考対象となる業績には、植生学会誌掲載論文のほか、植生学に関するその他の論文・著書も含める。別に定める植生学会賞推薦要領に基づき、推薦者によって推薦書が提出された受賞候補者の内から表彰委員会が受賞予定者を選定する。 (第6条2を削除)	第14条	[その他] その他表彰に必要な事項は表彰委員会の議を経て決定する。
	付則	本規程は2008年10月1日より施行する。

III. 企画委員会報告

2008年10月11日に東京農工大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. シンポジウムの企画など今期の活動計画について審議した。
2. 日本生態学会第56回大会(2009年3月, 盛岡)の自由集会で「群落談話会」を開催することとした。

IV. 表彰委員会報告

2008年10月11日に東京農工大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 学会各賞の推薦要領について審議, 決定した。
2. 研究発表賞の実施に関する事項について審議した。

V. 2008年度総会報告

2008年10月12日に東京農工大学において2008年度総会が開催され, 以下の事項が報告または承認された。

A. 報告事項

1. 学会事務局

2008年10月3日現在の会員数(正会員565名, 団体会員13団体, 賛助会員1団体)が報告された。

2. 各種委員会

上記I-IVの運営委員会および各種委員会の審議事項が報告された。

B. 承認事項

1. 2007年度収支決算(別掲2)を承認した。

別掲2. 植生学会2007年度収支決算

(単位: 円)

収入の部		予算	決算	差異	備考
前期繰り越し		5,604,351	5,604,351	0	
会費		3,486,000	2,957,000	529,000	
バックナンバー売り上げ		300,000	171,280	128,720	
雑収入		0	47,709*	-47,709	*著作権使用料など
利息		500	3,635	-3,135	
計		9,390,851	8,783,975	606,876	
支出の部		予算	決算	差異	備考
植生学会誌刊行費	850,000円×2回	1,700,000	1,751,254*	-51,254	*第24巻第1号および第2号
植生情報刊行費	400,000円×1回	400,000	349,734*	50,266	*第11号
送料		250,000	134,220*	115,780	*植生学会誌送料と選挙関連費を除く
学会事務局経費		600,000	1,187,381 (673,836)	-587,381	内訳1: 選挙関連費以外の事務局経費 (会計事務経費を含む) 内訳2: 選挙関連費(会員名簿の印刷費を含む)
編集事務局経費		150,000	150,963	-963	
植生情報編集費		40,000	34,640	5,360	
企画委員会経費		300,000	386,929*	-86,929	*第5回シンポジウム
大会補助費		350,000	350,000*	0	*第12回大会
予備費		5,600,851	64,050*	5,536,801	*植生学会誌別刷・超過ページ代等立替費
計		9,390,851	4,409,171	4,981,680	
収支差額(繰り越し)		0	4,374,804	-4,374,804	

別掲3. 植生学会2008年度収支予算

(単位: 円)

収入の部		2008年度	2007年度	差異	備考
前期繰り越し		4,374,804	5,604,351	-1,229,547	
会費		3,358,000*	3,486,000	-128,000	*一般485, 学生77, 団体13, 賛助1
バックナンバー売り上げ		200,000	300,000	-100,000	
雑収入		40,000	0	40,000	
利息		500	500	0	
計		7,973,304	9,390,851	-1,417,547	
支出の部		2008年度	2007年度	差異	備考
植生学会誌刊行費	900,000円×2回	1,800,000*	1,700,000	100,000	*第25巻第1号および第2号
植生情報刊行費	400,000円×1回	400,000*	400,000	0	*第12号
送料		0*	250,000	-250,000	*学会事務局経費に含める
学会事務局経費		850,000*	600,000	250,000	*植生情報送料と会計事務経費を含む
編集事務局経費		150,000	150,000	0	
植生情報編集費		40,000	40,000	0	
企画委員会経費		300,000	300,000	0	
大会補助費		350,000*	350,000	0	*第13回大会
予備費		4,083,304	5,600,851	-1,517,547	
計		7,973,304	9,390,851	-1,417,547	

- 2. 2008 年度収支予算（別掲 3）を承認した。
- 3. 植生学会会則の改定（別掲 4）を承認した。
- C. その他
- 1. 2006 年度収支決算および 2007 年度収支予算の承認が遅れたことについて、前会計幹事および前会長より説明と陳謝があった。
- 2. 第 14 回大会開催地となる鳥取大学の日置佳之氏より、多数会員の参加が要請された。

VI. 学会賞

2008 年度の学会各賞の受賞者は以下のとおり。授与式は 2008 年 10 月 12 日の総会会場において行われ、各賞受賞者に表彰状と記念品が福嶋 司会長から贈呈された。

植生学会賞

- 服部 保（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）
- 伊藤 哲（宮崎大学農学部）

植生学会奨励賞

- 川西基博（立正大学地球環境科学研究科 ORC）

植生学会功労賞

- 奥田重俊（横浜国立大学名誉教授/㈱建設環境研究所）

植生学会特別賞

- 梅原 徹（㈱建設環境研究所/NPO 法人大阪自然史センター）

植生学会研究発表賞

- 口頭発表賞
- 川角法子（北海道大学大学院農学院）

釧路湿原の低層湿原における埋土種子組成
 ポスター発表賞
 黒田有寿茂（兵庫県立大学自然・環境科学研究所）
 屋久島低地部におけるスギ人工林の種組成および多様性
 とその地域間差異

VII. 植生学会第 13 回大会報告

植生学会第 13 回大会（大会会長：福嶋 司，実行委員長：星野義延）が、2008 年 10 月 11 日から 13 日にかけて東京農工大学府中キャンパスにおいて開催された（下記日程）。一般講演では口頭 29 題，ポスター 23 題の発表が行われた。参加者は予約申込者 131 名，当日参加者 102 名の計 233 名であった。

- 10 月 11 日：各種委員会，運営委員会
- 10 月 12 日：一般講演（口頭発表・ポスター発表），学会賞授与式，総会，懇親会
- 10 月 13 日：エクスカージョン（明治神宮と国立科学博物館 附属自然教育園コース，高尾山コース，御岳山コース）

一般講演は以下のとおりであった。

<口頭発表>

- A01 統計モデルを用いた水生植物の分布規定要因の解析—多摩川中流域の農業用水路を例として—。鈴木晴美・吉川正人・星野義延（東京農工大・院・農）
- A02 標津川蛇行復元予定区域の植物群落の現状とその問題点。堀端純平（北大・院・農）・富士田裕子（北大植物園）・三木 昇（㈱エコニクス）・東 隆行（北大植物園）

別掲 4. 植生学会会則改定条項

旧（下線は削除）	新（下線は追加・改定箇所）
—— <前略> ——	—— <前略> ——
第 7 条 「権利」 会員はつぎの権利をもつ。	第 7 条 「権利」 会員は <u>次</u> の権利をもつ。
第 8 条 「義務」 会員はつぎの義務を負う。（後略）	第 8 条 「義務」 会員は <u>次</u> の義務を負う。（後略）
第 9 条 本会に次の役員をおく。 ①会長 1 名，②運営委員若干名，③幹事長 1 名，④幹事 3 名（庶務，会計，編集），⑤会計監事 2 名，⑥編集委員長 1 名，⑦編集委員若干名，⑧専門委員会委員長各 1 名，⑨専門委員若干名	第 9 条 本会に次の役員をおく。 会長 1 名，運営委員若干名，幹事長 1 名，幹事 <u>4</u> 名（庶務 <u>1</u> 名，会計 <u>1</u> 名，編集 <u>2</u> 名），会計監事 2 名，編集委員長 1 名，編集委員若干名，専門委員会委員長各 1 名，専門委員若干名
第 10 条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。	第 10 条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。
—— <中略> ——	—— <中略> ——
8) 役員の任期はいずれも 3 年とし，会長および運営委員は連続三期の再任を妨げる。	8) 役員の任期はいずれも 3 年とし，会長および運営委員は連続 <u>3</u> 期の再任を妨げる。
—— <中略> ——	—— <中略> ——
第 16 条 「編集事務局」 編集事務局は編集委員長，編集幹事および編集委員をもって構成し，会誌の編集，刊行に関する会務を行う。	第 16 条 「編集事務局」 編集事務局は編集委員長および編集幹事をもって構成し，会誌の編集，刊行に関する会務を行う。
—— <中略> ——	—— <中略> ——
「付則」	「付則」
第 2 条 会費は正会員年 6,000 円（学生会員年 4,000 円），団体会員年 10,000 円，賛助会員一口 10,000 円とする。	第 2 条 会費は正会員年 6,000 円（学生会員年 4,000 円），団体会員年 10,000 円，賛助会員 <u>1</u> 口 10,000 円とする。
—— <後略> ——	—— <後略> ——

- ・藤田 玲 (草花堂)
- A03 知床半島羅臼湖周辺湿原における近年20年の植生変化と現状の把握. 加藤ゆき恵(北大・院・農)・富士田裕子(北大植物園)
- A04 釧路湿原の低層湿原における埋土種子組成. 川角法子(北大・院・農)・富士田裕子(北大植物園)
- A05 北海道におけるチョウジソウ生育地の植生と立地環境の特性. 加川敬祐(北大・院・農)・富士田裕子(北大植物園)
- A06 水田畦畔法面の二次草原における管理放棄後の年数と種組成・種数との関係. 松村俊和・武田義明(神戸大・院・人間発達環境)
- A07 東京都奥多摩地域におけるニホンジカの分布および生息密度の変遷と植生への影響. 大橋春香(東京農工大・連合農学)・星野義延(東京農工大・共生科学技術)・大野啓一(千葉県中央博)
- A08 北関東・東海東部に隔離分布するフモトミズナラ林の種組成. 須田大樹(埼玉県自然博)・星野義延(東京農工大)
- A09 東日本におけるブナの水平・垂直分布とこれを規定する気候・歴史要因について. 原 正利(千葉県中央博)
- A10 テン (*Martes melampus*) を指標とした植生の評価. 足立高行・桑原佳子(応用生態研)
- A11 大分川河川敷のヤナギ林の動態について, その4. 桑原佳子・足立高行(応用生態研)
- A12 市街地河辺植生の5年間の動態. 村上雄秀(国際生態学センター)・安藤彰則(㈱ ラーゴ)
- A13 木津川砂州の植物群落と主要種の立地特性. 山崎俊哉・梅原 徹(㈱ 建設環境研究所)・丸井英幹(エコロジー研究所)・恵 明・松井 淳(奈良教育大)
- A14 上高地梓川の河床砂礫部における先駆樹種パッチの動態. 石川慎吾(高知大・理)・川西基博(立正大・ORC)
- B01 植生学を専門とする地域博物館職員による市民との連携事例ーモニ1000ー展示企画を中心にー. 蛭間 啓(飯田市美術博)・はなのき友の会
- B02 絵図と古文書に記録された景観と植生の変遷ー東広島市黒瀬町の事例ー. 下田路子(富士常葉大・環境防災)
- B03 スルホニルウレア系除草剤抵抗性の進化と生活史特性. 池田浩明(農業環境技術研)
- B04 島嶼偏在植物の分布と生態. 中西弘樹(長崎大・教育・生物)
- B05 島嶼に分布するシイ類個体群における北限(佐渡島)と南限(屋久島)の違い. 小林悟志(新領域融合研センター)
- B06 照葉人工林の自然性はどの程度まで発達するのか. 服部保・黒田有寿茂・澤田佳宏(兵庫県立大)・南山典子(兵庫県人と自然博)・岩切康二(岩切環境技研 ㈱)・福井聡(㈱ 里と水辺研究所)・黒木秀一(宮崎県総合博)
- B07 半乾燥・耕作限界域に位置する有畜農村の植生と荒漠化: 内蒙古自治区・武川県五福号集落の事例. 平吹喜彦(東北学院大・教養)・菅野 洋(㈱ 宮城環境保全研究所)・蘇德斯琴(内蒙古大・蒙古学研究中心)・郝 潤梅(内蒙古師範大・地理科学院)
- B08 南アフリカ西部に分布するパイオームの生育形構造と降水パターンからみた成立機構. 沖津 進(千葉大・院・園芸)
- B09 高山植生の定量的解析と評価. 大野啓一(横浜国大・院・環境情報)・加藤健一(㈱ 環境アセス)・増沢武弘(静岡大・理・生物)
- B10 ユーラシア大陸におけるステップ植生の植物社会学的研究. 程 云湘(鳥取大・乾燥地研究センター)・上條隆志・中村 徹(筑波大・生命環境)
- B11 中国雲南省南部菜陽河自然保護区における照葉樹林のシダ植物の多様性と地形との関係(予報). 橋本佳延・岩槻邦男(兵庫県人と自然博)・服部 保(兵庫県立大・自然環境研)・武田義明(神戸大・院・人間発達環境)・黒田有寿茂・澤田佳宏・石田弘明(兵庫県立大・自然環境研)
- B12 2タイプの孤立林における林床生シダ植物の種数と樹林面積の関係. 石田弘明・服部 保(兵庫県立大・自然環境研)・戸井可名子(㈱ 緑生研究所)・武田義明(神戸大・発達科学)
- B13 アカマツコナラ林における下草刈り停止後のアズマネザサの動態. 阿部聖哉・梨本 真(電力中央研・生物環境)
- B14 長野県北部のスキー場跡地における緑化事例. 小山泰弘(長野県林業総合センター)・上田岳義(長野県北信地方事務所)
- B15 三宅島2000年噴火荒地における地域性系統を用いた緑化地の植生. 上條隆志(筑波大・生命環境)・伊藤祐太郎(筑波大・生物資源)・玉谷雄太(筑波大・生命環境)
- <ポスター発表>
- P02 砂防堰堤上流部に発達した植物群落とその土壌環境. 小館誓治(兵庫県立大・自然環境研/兵庫県人と自然博)
- P03 三宅島2000年噴火による火山灰堆積地における植生遷移と土壌断面形態. 川越みなみ・上條隆志・田村憲司(筑波大・生命環境)
- P04 溪畔域のスギ人工林における間伐とリター除去が植物の定着に及ぼす影響. 川西基博(立正大・ORC)・小松忠敦(立正大・地球環境)・崎尾 均(新潟大・農)・米林伸(立正大・地球環境)
- P05 屋久島低地部におけるスギ人工林の種組成および多様性とその地域間差異. 黒田有寿茂・石田弘明(兵庫県立大)・岩切康二(岩切環境技研 ㈱)・福井 聡(㈱ 里と水辺研究所)・服部 保(兵庫県立大)
- P06 猪名川旧堤防のエノキムクノキ林の20年間の植生変化. 石丸京子(環境学園専門学校)・柳楽 忍(自然と文化の森協会)・猪名川自然林サポータークラブ
- P07 木曾川感潮域におけるニレ科樹種の生育立地. 比嘉基紀・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P08 天城山における樹種多様性に及ぼす地形・堆積物と林分構造の影響. 塩野貴之・鈴木拓馬・小出 大・持田幸良(横浜国大・院・環境情報)
- P09 富士山南麓のブナ帯域におけるスズタケの分布と地形・土壌との関係. 岡田真樹・吉川正人・福嶋 司(東京農工大・院・農)
- P10 札幌市藻岩山の落葉広葉樹林における種組成と微地形との関係について. 横山卓巳(北教大・院・教育)・並川寛司(北教大・札幌校)

- P11 資源環境分布に及ぼす地形の効果. 上野直人・寺原幹生・清和研二(東北大・院・農)
- P12 太平洋側ブナ個体群の更新に与えるシカ摂食の影響. 小出大・持田幸良(横浜国大・院・環境情報)
- P13 ブナ分布最北限域におけるブナ個体群の分布状況とその特徴. 松井哲哉(森林総研・北海道支)・並川寛司(北教大・教育・札幌校)・小林誠(北大・環境科学)・紀藤典夫(北教大・教育・函館校)
- P14 四国山地剣山山系におけるツキノワグマの爪痕跡からみた利用木本種と植生. 伊藤徹(高知大・理)・金澤文吾(四国自然史研)・草刈秀紀(WWFJ)・石川慎吾(高知大・理)
- P15 維管束着生植物の森林内における垂直方向の分布特性と出現頻度との関係. 平田晶子・上條隆志(筑波大・生命環境)
- P16 宮崎県串間市の里地地域における草地生植物の種多様性. 河野円樹・大澤雅彦(東大・院・新領域)・河野耕三(綾町企画財政課)
- P17 成ヶ島の塩湿地における外来種スズメノナギナタの分布. 木村奈穂子(淡路景観園芸学校)・藤原道郎・澤田佳宏(兵庫県立大・自然環境研/淡路景観園芸学校)
- P18 チョウジソウ *Amsonia elliptica* の種子発芽特性. 畑中由紀・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)
- P19 兵庫県における調整水田植生の地域性. 江間薫(神戸大・発達科学)・武田義明(神戸大・院・人間発達環境)
- P20 高知県の中山間地における棚田の耕作放棄及び復田作業による植生変化. 兼田侑也・山城沙織・石川慎吾・三宅尚(高知大・理)
- P21 岡山県前島の植生-人間活動が森林植生に与える影響-. 松岡憲吾(岡山理科大学・総情・生地)・財津一行(岡山理科大学・総情・生地)・太田謙(岡山理科大学・総情・環境)・波田善夫(岡山理科大学・総情・生地)
- P22 山梨県都留市の里山履歴-十日市場, 上谷, 尾崎山を例として-. 加藤正士(横浜国大・院・環境情報)
- P23 中国雲南省のトウツバキ *Camellia reticulata* 自生地における植生. 山下寿之・志内利明・中田政司(富山県中央植物園)・王仲朗・王霜・魯元学・管開雲(中国科学院・昆明植物研究所)
- P24 内モンゴル草原タルツールにおける衛星画像 ALOS/AVNIR-2 データによる植生評価の有効性. 前迫ゆり・シュリ(大阪産大・院・人間環境)・松村加奈子(奈良女大・共生研センター)